

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第1回

『羅生門』授業ガイド

証言はなぜ食い違うのか —— 「『誰が、何のために』語っているか。」

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

📖 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	証言はなぜ食い違うのか（同じ出来事でも、語る人の立場・見えた範囲・目的で話が変わる）
教材映画	『羅生門』（1950年・日本（大映）／監督・脚本：黒澤明／原作：芥川龍之介『藪の中』『羅生門』）
対象	中学生以上。性暴力をめぐる事件が物語の中心にある（直接的な描写は控えめ）ため配慮が必要（下記参照）
時間	標準100分（50分×2）。上映88分。全編視聴も可能な長さ
中心概念	証言の食い違い／「羅生門効果」／発信者の立場と目的／事実と意見の区別
ねらい	情報は「誰が・何のために」語ったかで変わることを理解し、複数の証言を比べて受け取る姿勢を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／4人の証言を比べる表（板書またはプリント）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 性暴力をめぐる事件の扱い（重要）

本作は、**性暴力をめぐる事件**が物語の中心にあります（直接的な描写は控えめです）。扱う際は、テーマを「**証言の食い違い**」に絞ってください。

- 被害にあった人物を責める見方にならないよう配慮する（「誰がうそをついているか」の犯人探しに終始しない）。
- 同様の経験を持つ生徒がいる可能性に配慮し、**感想の発表は強制しない**。
- 古い作品のため、言葉づかいや音声聞き取りにくい場面がある。**字幕や事前のあらすじ説明**を活用する。
- ワークは「どの話が正しいか」ではなく、「**なぜ話が違うのか**」を考える形にする。

📄 レイティング・著作権について

- 年齢区分は配信版・ソフトにより表示が異なる場合があります。使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 原作と「羅生門効果」(予備知識)

原作と時代背景

芥川龍之介の短編小説『藪の中』を中心に、『羅生門』の設定を組み合わせています。舞台は平安時代。荒れ果てた都の門「羅生門」で雨宿りをする人々の会話から物語が始まります。「真相は藪の中」という言葉は、この原作小説のタイトルから生まれました。

「羅生門効果」とは

同じ出来事について、人によって証言が食い違うことを、この映画にちなんで海外でも「羅生門効果 (Rashomon effect)」と呼ぶことがあります。裁判や心理学、報道の世界でも使われる言葉です。

💡 「うそつき探し」にしない

4人の話が違うのは、単に「うそつきがいる」からだけではありません。自分をよく見せたい気持ち、見えた範囲のちがいが、語る目的のちがいが話を変えます。この3つの観点で証言を整理させると、SNSやニュースを読むときの視点に自然につながります。

特集を通して使う「4つの問い」(板書用)

① 誰が伝えている？

発信者は誰で、どんな立場か。

② 何のために？

伝える目的や、得をする人は誰か。

③ 裏づけはある？

確かめられる事実と、意見・感想を分ける。

④ ほかの見方は？

別の立場からは、どう見えるか。

🎯 この授業の到達目標

証言が食い違う理由を「立場・見えた範囲・目的」の観点で説明でき、身近な情報にも「4つの問い」を当てはめて考えられる。

4 100分授業の流れ (50分×2)

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	同じ出来事を2人に説明させ、話が少しずつ違うことを体験させる (身近で軽い題材で)。
10-18分	背景	原作・時代背景・登場人物を簡単に説明。「証言の食い違い」に注目して見るよう伝える。
18-50分	映画を観る①	盗賊・妻の証言の場面 (クリップ)。証言ごとの違いをメモさせる。
50-72分	映画を観る②	侍の霊・木こりの証言の場面 (クリップ)。
72-90分	ワーク記入	4人の証言を表で比べ、「なぜ違うのか」を3つの観点で整理する。
90-100分	共有・まとめ	「4つの問い」を紹介し、板書『「誰が、何のために」語っているか。』で締める。

🌱 まとめ

情報は、いつも誰かが、何かの理由で語ったものです。「どれが正しいか」を急いで決めるのではなく、「誰が・何のために・ほかの見方は」と問うこと。70年以上前の映画が示したこの視点は、SNSの時代にこそ役立ちます。

5 映画の背景知識

題名	羅生門（英題 Rashomon）
製作年・国	1950年・日本（大映）。上映88分。白黒
監督・脚本	黒澤明（『七人の侍』『生きる』など）。撮影は宮川一夫
受賞	1951年ヴェネツィア国際映画祭 金獅子賞。アメリカのアカデミー賞 名誉賞
原作	芥川龍之介『藪の中』『羅生門』

主なキャストと役柄

- 三船敏郎（多襄丸・盗賊役）：荒々しく、自分を大きく見せようとする盗賊。
- 京マチ子（真砂・侍の妻役）：語るたびに、まったく違う人物に見えてくる妻。
- 森雅之／志村喬（金沢武弘・侍／杣売り役）：死んだ侍と、事件を見ていた木こり。

☀ 太陽を撮った撮影

撮影の宮川一夫は、当時「フィルムが焼ける」とタブーとされていた、太陽を直接カメラで撮ることに挑戦し、木もれ日のゆらめく森を印象的に映し出しました。2008年にはデジタル復元版もつくられています。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 4人の話は、なぜこんなに違うのだろう？

→ 「うそつき探し」ではなく、自分をよく見せたい・見えた範囲・語る目的という3つの観点で整理させる。

Q. 木こりの話は、ほかの3人より「正しい」と言える？

→ 第三者の証言にも立場や事情があることに気づかせる（木こりにも語らなかったことがある）。

Q. 身の回りで「同じ出来事なのに話が違う」経験はある？

→ けんかの言い分、SNSの投稿など。具体的な人名は出さずに話し合う。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 証言が食い違う理由を、映画の具体的な場面を根拠に複数挙げられているか。
- 「どれが正しいか」だけでなく、「なぜ違うのか」を考えられているか。
- 「4つの問い」を身近な情報に当てはめて考えられているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

羅生門 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「羅生門 (1950年の映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/羅生門_\(1950年の映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/羅生門_(1950年の映画))

作品：映画『羅生門』（1950年、監督黒澤明）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。